（様式２）

４　学校教育計画

項	目	目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	・生徒の学習意欲を高め、学習内容の理解を深めることにより、確かな学力を身に付けさせる。 ・商業の基礎的・基本的な知識や技術を確実に習得させるとともに、生徒の多様な個性を伸長させる。 ・検定や資格取得の指導を充実させ、進路実現に役立てる。 ・教科指導をとおして、生徒自らが「学びたい」と思えるような魅力ある学校づくりを目指す。 ・販売実習を通して社会人基礎力（特に「考え抜く力」）の育成を図る。
	重点１① 重点１② 重点５① 重点５② 重点６	計画	・教務部と各教科主任が連携し、取り組み内容についての共通理解を図る。 ・**各教科において互見授業を実施し、他教科の教員も参加する。** ・教科部会において、学習指導に関する研究を行う。 ・**生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。**分析結果は教務部でとりまとめる。結果内容については教科部会で検討し、今後の学習指導の改善に資する。 ・**検定・資格の取得目標をしっかり持たせるとともに、補習授業を実施するなど指導の徹底を図る。** ・「専門技術者等特別講師招聘事業」により、地域で活躍する専門家を招聘し、「生き方」、「職業観」、「専門的知識」について学ぶ。 ・**学校行事として生徒販売実習「模擬株式会社　TOMI SHOP」を行い、その企画、運営、振り返りの中に、「考え抜く力」を伸ばす仕掛けを入れる。**
2	学校生活	目標	・商業教育活動の中で社会人になるためのあいさつ、礼儀等の基本的なマナーを身につけさせ、規律ある生活態度と調和のとれた人格を育成するために、全教職員で共通理解を図り、粘り強く指導する。 ・交通ルールを守り、自転車に正しく乗る等、交通安全意識の向上を図る。 ・学校保健の目的を達成するために、自己の発育や健康状態について正しく理解し、健康的な生活をしようとする能力や態度を身につけさせる。 ・生徒の健康・栄養指導の推進を図るとともに、食堂（２階）利用の正しい理解と態度を養う。また、富商会館（１階）の適切な維持運営を行う。・商業教育の中で社会人になるための挨拶、礼儀等の基本的なマナーを身につけさせる。
	重点８①	計画	・挨拶の大切さと意義を十分理解して、儀礼的でない自然に出てくる挨拶を身につけさせる。 ・登校指導・頭髪服装指導を重点にして、きまりや基準のもつ本質的な意味を理解させ、校則遵守など規範意識の向上や基本的生活習慣の育成に努める。 ・交通安全講話、街頭指導などを通して、交通ルールやマナーなど社会的モラルや自律心・自己を向上させる力の育成に努める。 ・自転車の施錠徹底による規範意識の向上を目指す。 ・富山商業高校いじめ防止基本方針に則り、いじめに対する生徒・教職員・保護者・地域の意識統一を図り、いじめの無い学校生活を目指す。 ・**定期健康診断、体力測定を適切に計画し実施して、その結果に基づく疾病異常者や予防接種の未接種者等への保健指導の徹底を図る。**

項　　目		目標・方針及び計画	
2	学校生活 重点３ 重点８②		・防犯教室・薬物乱用防止教室、スマホ・携帯安全利用教室、AED 等応急処置講習会を実施し、危険予知力や回避能力を高め、自己の安全を保持する態度の育成に努める。 ・学校生活における危険予知力や回避能力を育て、事故発生率を減らすための生徒が在学中の3年に一度や運動部員を対象にＡＥＤや応急処置の講習会を実施する。 ・組織的な教育相談の効果的活用を図るため、研修の機会を持ち、教育相談スキルの向上を図る。 ・食堂マナー指導等の生徒委員会活動の充実に努め、成果を高めるとともに、生徒の興味関心を高めるために保健室からのお知らせ等の内容を工夫する。
3	進路支援 重点４① 重点４②	目標	・生徒が学校生活を通じて自己理解を深め、進路探求を進めるなかで、一人一人の進路実現への援助を行う。 ・学校全体での組織的、計画的かつ効率的なキャリア教育を行う進路指導体制を確立する。
		計画	・受験に必要な教科科目の学習、小論文指導の方針、面接の指導方法等について教職員間で共通理解を図り、教職員全体で協力し、より効果的、効率的な指導を行う。 ・自己理解を深め、自己受容を促すとともに、各自の適性に合った進路選択ができるように進路情報の提供を機会あるごとに行い、進路意識の向上を図る。 ・就職採用試験についても、同様の受験指導を行う。 ・コミュニケーション能力の育成に努める。
4	特別活動 重点２ 重点７① 重点７②	目標	・生徒会活動や部活動を通し、自律的・自主的な生活態度を養う。 ・豊かな人間性を身に付け、社会の一員として強く生きていくことのできる「人」を育てる。 ・読書への関心・意欲を高め、読書の習慣化を推進する。 ・図書館行事のさらなる充実を図り、学校における文化・教養の場としての役割を担う。
		計画	・生徒会の役員を中心に、行事の運営委員会やリーダー研修会を開催し、生徒の企画力・指導力を養うとともに、円滑な行事運営を目指す。 ・部活動指導上の諸問題について検討し、競技力の向上や充実した部活動の運営を目指す。 ・図書館内外の展示に工夫を凝らし、図書館に入りたくなるような雰囲気作りに努める。 ・授業での図書館利用が円滑に行われるように、図書資料を充実させる。また、教科との連携を図り、資料収集や図書館活動に反映させる。 ・図書館主催行事の日程、内容を工夫し、生徒が興味関心をもって参加できるよう企画する。
5	そ の 他 重点９① 重点９②	目標	・ＰＴＡ活動を活性化することにより、家庭と学校の連携を今まで以上に強め、学校教育に対する共通理解をより深いものにする。
		計画	・ＰＴＡの定期総会・各事業の内容を、より魅力あるものに改善する。 ・ＰＴＡ役員会やＰＴＡ行事の日時設定を工夫し、保護者が参加しやすい環境を整えるとともに、学校の教育方針の理解度を深める。 ・保護者や生徒へのアンケート結果を踏まえてＰＴＡ会員全体に関わる行事の内容を企画立案し、満足度を高める。

（様式３）

5　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―１―		
重点項目	学習活動	
重点課題	教科指導の充実と確かな学力の向上	
現　　状	・生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図るとともに、生徒に意欲をもって授業に取り組ませ、確かな学力を身に付けさせることが必要である。	
達成目標	①指導力の向上を意識した授業改善	②課題解決力を身に付けさせる
	他の教員の授業を、各学期３回以上参観する。 生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。授業内容の理解度８０％以上	目標達成度評価表により、年３回以上評価基準に照らし合わせ自分を振り返る。 自己評価シートで項目ごとにチェック。課題解決力６項目で、Ｓ・Ａ評価が全体の５０％以上
方　　策	・各学期に互見授業週間（年３回）を定め、各週間に他の授業を各３回以上参観する。 ・参観者は、互見授業シートを記入し、授業者及び自らの授業改善に資する。 ・各科目学習アンケートを取り、生徒の授業への取り組み具合を確認する。	・期末考査(年３回)後に、「課題解決力」６項目(コミュニケーション能力、自主性、協調性、粘り強く挑戦する心、創造性、確かな学力)について、現在のレベルをチェックし、評価の具体的根拠を記入し、提出。

<table>
<tr><td colspan="3">令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―２―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">特別活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">部活動の活性化と競技力の向上</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・本校は運動部１７、文化部１１の計２８部が設置されており、全員部活動制である。
・運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度は北信越大会や全国大会がほぼ通常通り開催された中、全国大会出場者はのべ１８６名（２３．５%)、北信越大会出場者はのべ４１２名（５２%）で、全国大会は目標にわずかに届かなかったが、北信越大会は目標を大幅に超えることができた。
・部活動個人目標カードを用いて各個人の目標を立てさせた。「達成できた」「まあまあ達成できた」と答えた人は、６９．４%と昨年度とほぼ同じだったが、目標にはわずかに届かなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①部活動の個人目標達成度
（個人目標達成者数÷全校生徒数×１００）</td><td>②全国大会・北信越大会出場生徒の割合
（大会出場者人数÷全校生徒数×１００）</td></tr>
<tr><td>７０%以上</td><td>全国２０%以上　　北信越３０%以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・３年間使用の部活動個人目標カードを作る。各年度で目標を立て、達成するための方策を考えさせ、結果目標が達成できたかどうかを振り返らせる。そして、次年度に向けて「心身の健康・人間関係能力・責任感・創造性・チャレンジ精神・リーダーシップ・フォロワーシップ」を意識させながら反省等を記入させ、生徒の部活動に取り組む意識を高める。
・成績目標だけでなく生活態度の目標も立てさせ、それらが関連しあっていることを意識させ、達成のための方策を考えさせる。
・各部活動を円滑に運営するために、適宜、部顧問会議やキャプテン会議を開き、諸問題について検討し、改善を図る。</td></tr>
</table>

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―３―	
重点項目	学校生活
重点課題	・スマートフォン等の使用に関する生徒の自己管理能力を育てる活動 ・交通事故の減少への意識向上 ・風紀委員会の各班の活動の活性化
現　　状	・目的意識を構築するのに時間がかかり、入学直後、学校になじみにくさを感じる生徒がいる。 ・ほとんどの生徒がスマートフォン等を所持しているが、ＳＮＳの適切な使用に関する意識がまだ低い生徒が見受けられる。 ・県内全域から通学しているため、慣れない通学による自転車による交通事故が起きている。昨年度の交通事故は 26 件で、重大な事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーについても、地域からご指摘を受けることもある。 ・自転車乗車時のヘルメットの着用が努力義務化されたが、まだ着用してくる生徒は少ない。 ・風紀委員の活動が活発化してきたが、まだ自主的な活動までには至っていない。 ・風紀委員会のスマートフォン等や自転車のマナー向上啓発運動がまだ浸透していない。
達成目標	「スマートフォン等に関する自己管理能力を育てるための取り組み」（年間３つ以上）
	交通事故件数の減少をめざす
	風紀委員会（班活動を含め）年間８回以上実施し、風紀委員の活動を活発にする
方　　策	・生徒のスマートフォン等使用に関する実態把握に努め、風紀委員会で、マナー向上のためのポスターや掲示板作成を実施する。 ・５月のＰＴＡ総会や学年別懇談会を活用し、保護者に対し「ＳＮＳによるトラブル撲滅」への協力を養成する。 ・４月に自転車点検、５月に交通安全指導講話を開催し、規範意識やマナーの向上を図る。 ・７月に全校生徒を対象にスマホ安全教室を開催し利用マナー向上に努める。 ・風紀委員を１年間の委員に変更し、活動の継続性や活性化を図る。 ・風紀委員が警察署や関係機関と合同で、自転車施錠やマナー向上の街頭呼びかけを行う。

<table>
<tr><td colspan="3">令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―４―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">進路支援</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">・社会や職業についての幅広い知識・理解とともに職業観・勤労観を育む。
・自己理解を深めさせ、一人一人が能力や適性に応じた進路選択ができるよう支援する。
・自分の考えや思いを的確に表現できる文章記述力を系統立てて指導する。
・個に応じた組織的・計画的な取り組みを通して、より効果的な進路支援を行う。</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・職業観・勤労観の育みが遅い生徒は、自己の進路希望・進路目標の確立が遅れがちである。
・生徒自身の自己理解が不十分な生徒は、適性や能力に適合しない進路選択をする場合がある。
・昨今、大学等の募集人員や受験倍率の変化、求人数が増加して就職希望先の選択の幅が広くなっている一方で、生徒自身の自己理解が深まっていない場合に、安易な進路選択が中途退学や早期離職などにつながる可能性がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①小論文における記述能力</td><td>②第３学年生徒の進路満足度</td></tr>
<tr><td>小論文模試の評価向上</td><td>９７％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td>・新聞記事の要約や自分の意見をノートにまとめ、物事を観察する力や分析する力を日頃から鍛えるとともに、思考を言葉にまとめて書き出す力を育成する。
・国語科と協力して国語の授業を活用し、小論文記述力を学年進行で向上させる方策を実施する。
・1，2年は年間3回、3年は年1回の小論文模試を実施する。
・外部講師によるガイダンスを実施し、幅広い知識や考え方を養う。
・小論文模試では、「説得力」「構成力」等の評価の向上を目指す。</td><td>・より早い段階から具体的に自らの進路を考えさせるように計画を立て、実施する。
・生徒の進路実現により即した進路ガイダンス等の実施に向けて取り組む。
・進路適性検査等により、自己の能力・適性を考える機会とし、適切な進路選択を行うよう指導する。
・生徒の進路志望状況をできるだけ具体的に把握するとともに、家庭との連携を図るため、進路選択に必要な適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。
・進路実現を目指す生徒に対して、全教員による面接指導や個別学力補充の場を提供する。
・３年時に大きな進路希望変更がある場合、十分な話し合いと保護者との緊密な連絡を行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―５―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">学習活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">１　授業の充実　　２　検定・資格取得の向上</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">全商検定　１級３種目以上合格者（第３学年）
令和２年度　　５９名（２１％）（３学年７クラス）
令和３年度　１３３名（４８％）（３学年７クラス）
令和４年度　　８０名（２９％）（３学年７クラス）

全商検定　簿記２級合格者
令和２年度　１２６名（４５％）（１学年７クラス）
令和３年度　　９０名（３８％）（１学年６クラス）
令和４年度　１４６名（６０％）（１学年６クラス）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>１　授業の充実</td><td>２　検定・資格取得の向上</td></tr>
<tr><td>生徒の授業満足度
８０％以上</td><td>全商検定１級３種目以上合格１００名以上（約４０％）
（現３学年６クラス）
全商簿記２級合格　　１７０名以上（約７０％）</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・授業担当者や学年と連携を密にとり、商業科全体で学習進度の統一や指導に向け連携を図る。
・基礎・基本の着実な定着を図るため定期的に小テストを実施し、生徒の理解度を高めるための学習指導体制を充実させる。
・教員間による授業の指導及び研究のための校内研修を行い、教員の指導力向上を図る。
・探究的な学習を通じ、生徒に将来の目標やその目標を実現させるために必要なことについて深く考え理解させることで、授業や検定取得に対する生徒の学習意欲を喚起する。
・１月に行われる検定については、補習授業を行い、学力の向上を目指す。</td></tr>
</table>

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―６―	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒販売実習「模擬株式会社　TOMI SHOP」を通して社会人基礎力を育成する
現　　状	社会人基礎力の中でも「考え抜く力」の評価が低く、他の力より伸び幅も狭い。 令和４年度は、最終自己評価でレベル３（通常の状況で効果的に発揮できた）の生徒が、 ○課題発見力　26.5%　　○計画力　21.3%　　○創造力　21.0%
達成目標	「考え抜く力」の能力要素の最終自己評価のレベル3の割合
	Ａ　50%以上　　Ｂ　40%以上
方　　策	①商業科の授業の中でケーススタディを行い、個人またはグループで取り組むことで「考え抜く力」を養う。また、ケーススタディの題材に担当企業を取り入れることで、課題やその課題に対する解決策を具体的に考えられるようにする。 ②どのような店舗にしたいか目標を定め、共有する。 目標を定めておくことで、現実との差を感じ、その差を課題と認識することができる。 ③各営業日の閉店後に、ミーティングを設定する。 活動を振り返ることで課題が見える。また、解決策を考え実行する経験を積むことができる。 ④事後のＴＳＨＲで自分自身と他者を認めるワークを行う。 「TOMI SHOP」の準備や運営で、頑張っていた他者や自分自身を認めることにより、自己評価を高めることができる。

<table>
<tr><td colspan="3">令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―７―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">特別活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">読書の楽しさに出会い、本や雑誌を活用して探究する姿勢を学ぶ</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・活字離れが著しい生徒に対して、本を手に取ったり、図書館を知ってもらったりする契機として、教科と連携して、授業の中で貸し出しを行っている。読書へのきっかけ作りにはなるが、生徒自身が本を主体的に読む工夫や蔵書の充実が必要である。
・タブレットを活用した授業へのシフトにより、図書館利用が減少している。資料センターとして、授業その他で活用しやすい図書館を目指していきたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①　生徒の読書への興味を喚起する企画の工夫</td><td>②　授業で活用しやすい図書館の環境整備</td></tr>
<tr><td>各学期３回</td><td>通年</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・１学年での図書館利用指導を充実させる。
・「新刊図書案内」（図書部発行）や「図書館便り」（生徒図書委員発行）内容を工夫し、生徒の図書館へ興味関心を含め、生徒の読書に対する意欲を喚起する。
・領域やテーマを決めて関連図書を展示したり、話題の図書を随時紹介したりして、生徒に図書館利用を促すような企画展示を積極的に行う。
・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望を多く取り入れ、利用を促進する。
・国語科、地歴公民科をはじめ各教科と連携して、読書感想文や小論文、レポート作成の際の図書館の活用方法や新聞の活用の仕方について理解を促し、図書館の日常的な利用を図る。
・ICT教育に対応した図書館の役割を探り、授業で活用してもらいやすい環境整備に努める。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―８―</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校生活</td></tr>
<tr><td colspan="2">・生徒が日常生活において災害を未然に防止し、自分と他人の生命を守り障害を防止し、安全な生活をおくるとともに、正しい理解と態度を養う。
・教職員間で生徒理解を十分に図り、不登校、学校不適応、人間関係等の心理的な原因による体調不良等への対応や、相談、カウンセリング、専門医への繋ぎなど充実を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入は、任意であり掛け金や保護者の同意書も必要であるが加入率は１００％を維持している。生徒や顧問、授業担当者への注意喚起をしているが、事故発生件数自体は減少が見られない。
・様々な心理的な問題を抱え、不登校や保健室登校となる生徒がおり、教職員は生徒理解のためと教育相談スキルの向上が欠かせない現状である。</td></tr>
<tr><td>①　ＡＥＤや応急処置の講習会を実施</td><td>②　半期ごとに研修会の実施</td></tr>
<tr><td>年２回</td><td>年３回（生徒１回、教職員２回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">・生徒や顧問、担任、授業担当者へ、危険箇所や事故の起こりやすい状況等について注意喚起したい。また、ＡＥＤの校内設置場所を認識させる。生徒自身が危険を予知したり回避したりできるように、応急処置講習会は感染予防対策を講じて実施する。
・研修会を通じて、生徒理解のスキルアップをめざす。また、不登校、学校不適応、心理的な原因による体調不良等の生徒対応を円滑に行うため、担任や顧問、学年主任、保健厚生部、保護者が連携して問題解決に取り組み、スクールカウンセラーや医師などの専門家の効果的な活用を図りながら、確実な問題の解決にあたる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―９―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">その他</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">ＰＴＡ活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・ＰＴＡ総会への出席率は、３学年の進路説明会を同時開催することで５０％を超える水準となっていたが、昨年度は感染拡大防止のため実施されなかった。変更連絡など学校ホームページ等を活用して情報発信を行うことで状況の理解に努めた。今後も積極的に活用したい。
・本校独自のＰＴＡ事業として行っているＰＴＡ視察研修や食堂利用体験の満足度は９０％を超える水準で、参加者も増加している。また、３年前よりＰＴＡによる生徒への職業紹介講座を実施している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①　ＰＴＡ定期総会時の説明による学校の教育方針に対する理解度</td><td>②　ＰＴＡ視察研修事業・ＰＴＡによる職業紹介講座の満足度</td></tr>
<tr><td>９０％以上</td><td>９０％以上</td></tr>
<tr><td>方　策</td><td colspan="2">・ＰＴＡ定期総会の土曜日実施と１・２年生の授業参観・３年生の進路説明会・学年別懇談会の同日実施を継続し、保護者の日程的な負担を軽減することで、保護者が参加しやすくなる環境を整える。
・ＰＴＡ定期総会時の学校長・進路指導部長・生徒指導部長による学校全体の概況説明、学年別懇談会での指導方針を説明してもらうことで、本校の教育方針に対する理解度をより深める機会とする。
・ＰＴＡ視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。また、２年生対象に行うＰＴＡによる職業紹介講座については、生徒の希望に沿う職業人を招聘し、なるべくミスマッチの無い講座選択を実現する。
・ＰＴＡ事業について多くの会員の参加を得られるように、行事内容を配布物と学校ＨＰでの配信と両方で行う。
・機会ある毎に情報メール受信の登録を促し、多くの保護者に情報配信できる体制を整える。</td></tr>
</table>